

表土反転地「その他」の時系列的都県比較

あらためて、表土反転地「その他」の内容を確認しておく。

表土反転地「その他」

公園・墓地・ゴルフ場・緑の多い（60%以上）住宅地

運動場（競技場）・米軍，自衛隊施設（飛行場除く）

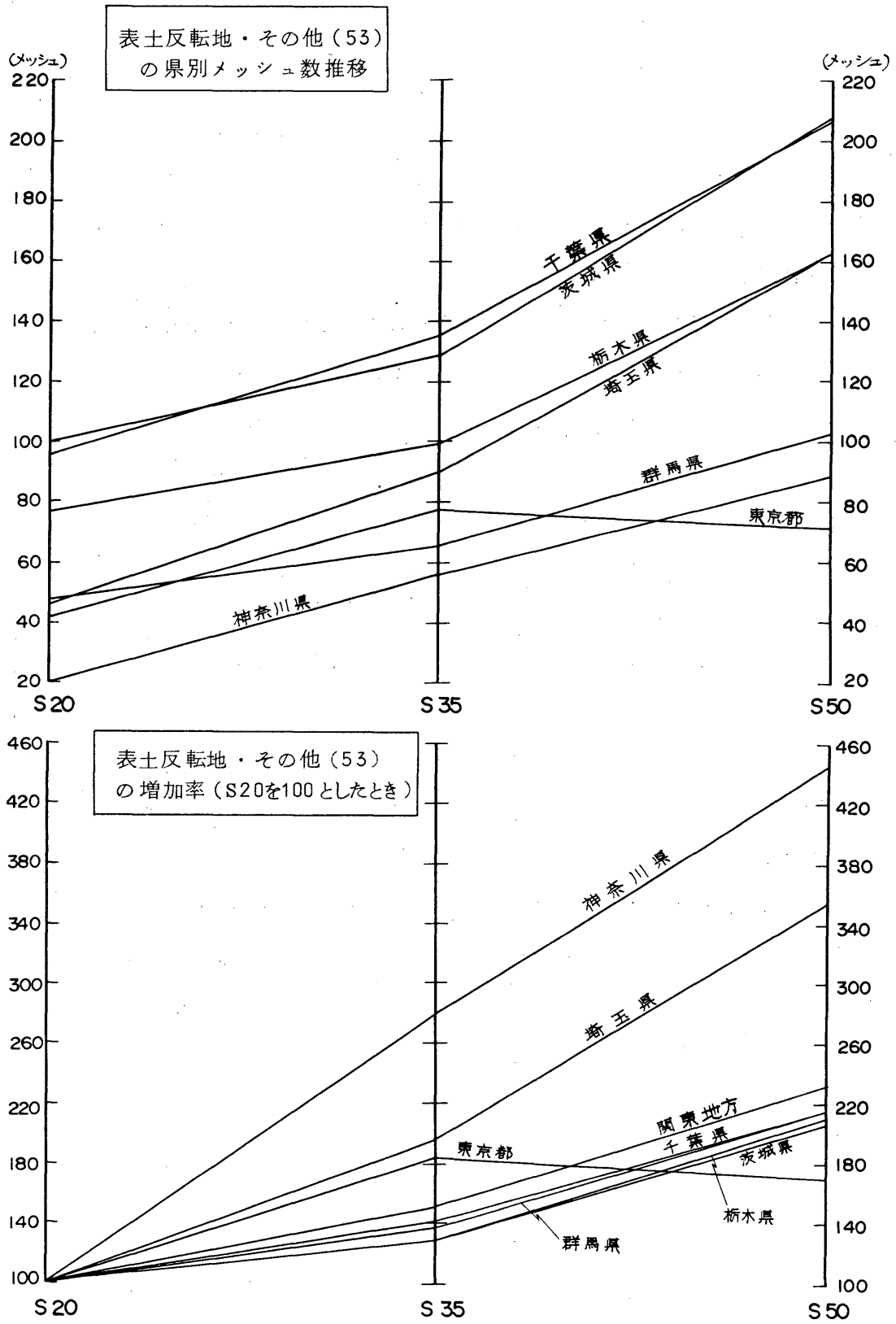
これらの内容から、容易に理解できるが、東京都は昭和20～35年（頃）間は一定の増加率を示すが、昭和35～50（頃）間で減少に転じている。

東京都以外では、いずれも一貫して増加傾向を呈しており、中でも神奈川県と埼玉県が増加率が著しい。これと、東京都における減少との対応関係は、興味深い。

神奈川県と埼玉県の2県に続いて、千葉，茨城，栃木，群馬の4県がほぼ同じ形の増加傾向を示している。

東京都を中心として、各県の地理的位置をみるならば、この表土区分内容が、時間的流れとして、市街地及び工場地帯とほぼ同じであることがわかる。

図-9 増加率顕著な表土区分の都県比較図 (3)



(5) 考察4 都県別表土改変概況(図-10参照)

東京都の昭和35~50年(頃)間の改変メッシュ数を除くと、おおむね250余りから500足らずの間の改変メッシュ数を示している。これを県別にみると、茨城県、千葉県、埼玉県、栃木県、神奈川県、群馬県、東京都の順で改変メッシュ数が多い。

これを各都県の全メッシュに対する割合で見ると、東京都の昭和20~35年(頃)間と神奈川が群を抜いて大きく15%以上を示している。次いで、埼玉県と千葉県の昭和35~50年(頃)間で10%強の率を占めている。その他は、おおむね10%以下となっているが、栃木県と群馬県は、他県に比べ若干小さな改変率となっている。

昭和20~35年(頃)間と昭和35~50年(頃)間に分けてグラフ化したので、その違いをみしてみる。

昭和20~35年(頃)間の改変が、昭和35~50年(頃)間より大きいのは、東京都と群馬県、茨城県である。

しかし、東京都の場合は、昭和20~35年(頃)間の改変が、昭和35~50年(頃)間よりはるかに多いのに比較して、群馬県と茨城県のそれは、大差ないものとみてよい。

この3県以外の栃木県、埼玉県、千葉県、神奈川県では、昭和35~50年(頃)間の改変が、前期を上まわっており、神奈川県を除くと、その差は顕著である。

図-10 都県別表土改変メッシュ数比較図 (1)

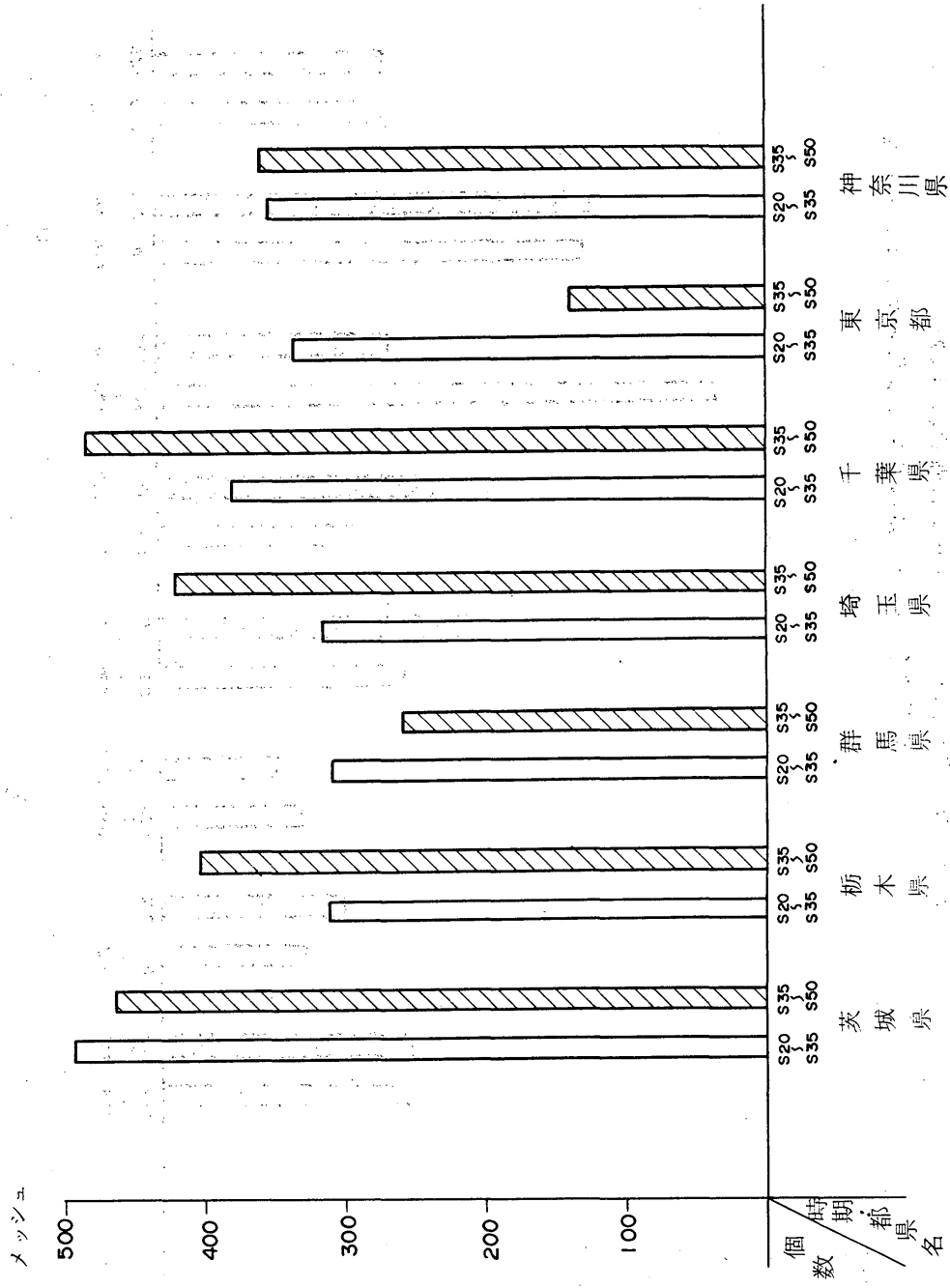
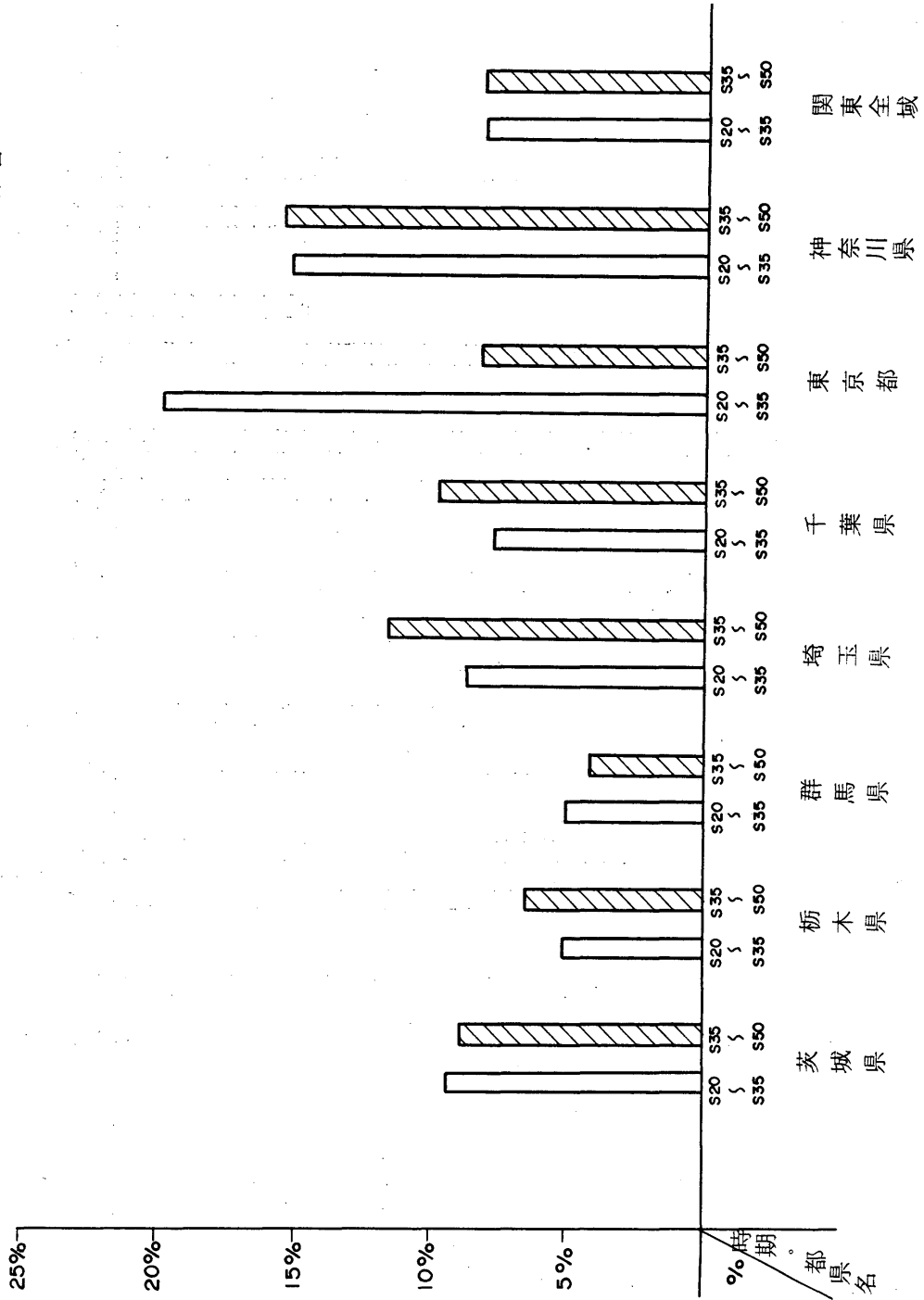


図-10 都県別表土改良メッシュ数比較図(2)  
都県の全メッシュ数に対する改良メッシュ数の割合



(6) 考察5 表土改変区分別表土改変概況(図-11参照)

昭和20~35年(頃)間と昭和35~50年(頃)間に分けて、表土改変区分別のメッシュ数を、都県別に集計し図示した。

全般的にみても、表土の被覆が、昭和20~35年(頃)間よりも昭和35~50年(頃)間で多くなっている。逆に、畑地化は後時期の方がかなり少なくなっている。

この2つが顕著なものであるが、昭和20~35年(頃)間より昭和35~50年(頃)間の方が多くなっているものには、盛土、表土の壊廃、表土の反転、があげられ、その逆のものでは、水田化があげられる。

以上のことは、昭和35~50年(頃)間に、いわゆる開発行為が、大きく進められたことを明らかに示しているものといえよう。

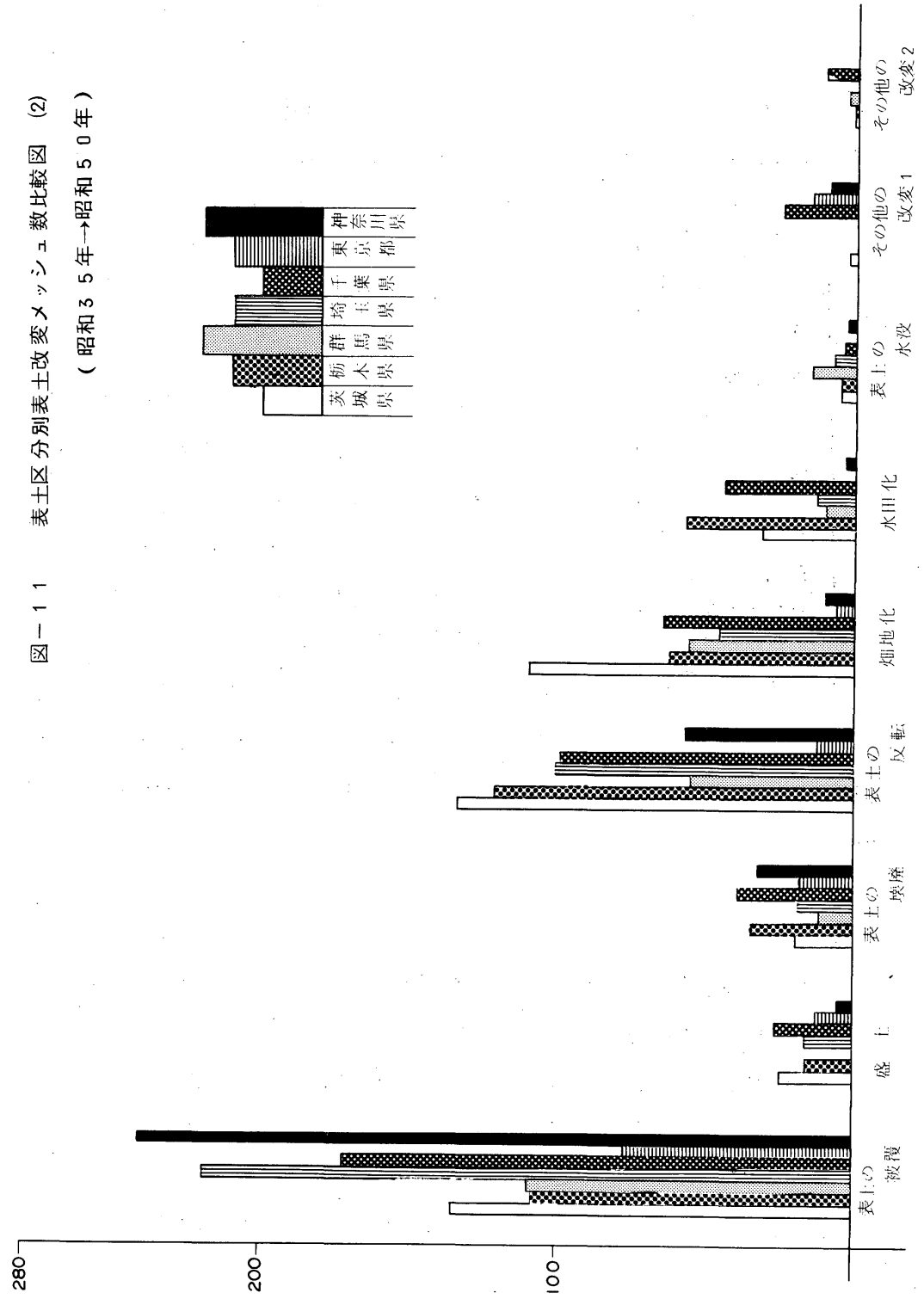
それぞれの表土改変区分は、又都県別に集計してあるので、これをみても。

表土の被覆と表土の反転では、東京都において、昭和35~50年(頃)間で改変メッシュ数が減っているが、その他の県は全て増えている。盛土と表土の壊廃は、全ての都県で昭和35~50年(頃)間に増加しており、畑地化と水田化は、全くその逆に減少の形を示している。

表土の水没は、群馬県における増加が、その他の改変1(埋立)は、千葉県、東京都、神奈川県における増加が、顕著なものとして指摘できる。



図一 1 表土区分別表土改変メッシュ数比較図 (2)  
 (昭和35年→昭和50年)





(7) 考察6 都県別・表土改変の詳細(表-8, 図-12参照)

表-4で示した「表土改変区分」を、今一度ここに掲げる。

非改変
表土の被覆
盛 土
表土の壊廃
表土の反転
畑地化
水田化
表土の水没
その他の改変1 (埋立化)
その他の改変2 (自然表土化)

左の表土改変区分は、表-3に示した「表土区分」の9区分に対応しているものであって、「表土区分」の細区分(17区分)に対応した改変区分になっていないことに留意して、成果データをみられたい。

(\*)つまり、表土区分のうち、例えば、森林から植林地に表土改変していたとしても、同じ「自然表土地」の中の表土改変であるから、この項の成果では、「非改変」の扱いになっている。

例えば、森林から市街地に表土改変されていたとすれば、「自然表土地」から

「被覆地」になったので、表土改変区分として「表土の被覆」という扱いになる。

関東地方

昭和20~35年(頃)間, 昭和35~50年(頃)間とも、関東地方の全メッシュ数に対して8%強の改変率である。

表土改変したものをみると、昭和20~35年(頃)間では、畑地化が最も多く、次いで表土の被覆と続く。この2者で表土改変のうち7割近くを占めるが、これ以外では、表土の反転と水田化がみられる。

しかし、昭和35~50年(頃)間になると、表土改変の内容が、全く異なってくる。

畑地化，水田化が半分以下の数となり、表土の被覆と表土の反転が大きく台頭してくる。

特に、表土の被覆が、表土改変したもののうち4割強と圧倒的に多くなる。

又、この期間になると、表土の壊廃が顕著化してきている。

これらの現象は、これまでの考察でも触れてきたが、いわゆる開発行為に伴う表土改変として理解できる。

#### 茨 城 県

表土改変メッシュ数の割合は、2時期とも、8%前後で、関東地方全域の傾向と、ほぼ同じである。

昭和20～35年（頃）間の表土改変したものをみみると、表土改変区分として出現しているものは、関東地方と同じであるが、その割合は大きく異なる。

畑地化が、6割近くと極端に大きく、これから大きく離れて水田化，表土の反転，表土の被覆の順となっている。この時期は、畑地化を太い柱として農耕地化が大きく展開された時期、といえよう。

昭和35～50年（頃）になると、やはり表土改変の様相に変化をみせている。いわゆる開発の進行化である。

大きく表土の被覆と表土の反転が増えて、いずれも3割弱の率を占め、前の時期に中心的だった畑地化は、2割強に大きく減少し、水田化も少なくなっている。

ここで、盛土と表土の壊廃が顕著化して出現していることを指摘しておく。

#### 栃 木 県

表土改変メッシュ数の全県のメッシュ数に対する割合が、いずれの時期も、5～6%強、と関東地方のそれ以下であるのは、この栃木県の他は群馬県だ

けである。

昭和 20～35 年（頃）間の表土改変メッシュでは、やはり畑地化が第 1 で、水田化がこれに続く。水田化が多いのは、特徴的である。表土の被覆と表土の反転も一定の割合で見られる。

昭和 35～50 年（頃）間になると、表土の反転と表土の被覆が第 1・2 位を占める。これから大きく離れ、ほぼ同率で畑地化と水田化となっている。又、他県と同様に、表土の壊廃が一定の割合で出現してきている。

### 群馬県

栃木県よりも表土改変メッシュ数の全県メッシュ数に対する率が、2 時期とも 4～5% 程度と小さい。

しかし、この 2 県は、全県のメッシュ数が他県よりもひととき大きい為に、表土改変メッシュ数の率を低めている面があることに注意する必要がある。

表土改変メッシュ数の絶対値は、他県と比べてもさほど異なるない。

昭和 20～35 年（頃）間の表土改変メッシュの内容は、茨城県と似ている。

畑地化が半分以上を占め、表土の反転，表土の被覆，水田化が見られる。

昭和 35～50 年（頃）間になると、表土の被覆が半分近くと大きくなるが、表土の反転，畑地化，水田化はかなり少なくなる。

この時期になると、他県にみられない特異なものとして、表土の水没が出現する。水利ダム建設のあらわれである。

### 埼玉県

表土改変メッシュの率は、昭和 20～35 年（頃）間では 8.7% と平均的であるが、昭和 35～50 年（頃）間で 11.6% と著しく大きくなっているのは、これまでの他県にみられないところである。

表土改変の内容についても、これまでの各県とは異なる。昭和 20～35 年（頃）間の表土改変メッシュで最も多いのは、表土の被覆で、その後に畑地化、表土の反転化、水田化と続く。

昭和 35～50 年（頃）間になると、表土の被覆が更に多くなり全体の半分以上となり、次に表土の反転が来て、この 2 者で、全体の 4 分の 3 を占める。

この現象と、表土の壊廃、盛土がこの時期に顕在化してくることは、首都圏としての埼玉県の開発の進行が大きいことを物語る。

これに対して、畑地化、水田化は極めて少なくなっている。

### 千葉県

表土改変メッシュ数とその率は、埼玉県と同様に、昭和 35～50 年（頃）間に著しく大きくなっているのが特徴的である。

昭和 20～35 年（頃）間の表土改変メッシュの内容は、茨城県と似ている。

畑地化が 4 割以上で群を抜いており、表土の被覆、水田化、表土の反転と続く。

昭和 35～50 年（頃）間になると、例外にもれず、表土の被覆が大きくすすみ、表土の反転もやや大きくなっている。この時期に、一定の率で顕著化してくるものに、表土の壊廃、盛土、その他の改変 1（埋立化）があげられる。これらは、開発行為の顕在化を物語る。

### 東京都

表土改変メッシュの率は、他県とは全く異なり特徴的である。つまり昭和 20～35 年（頃）間で、20% 近くの高率をみせながら、昭和 35～50 年（頃）間で、10% 以下に激減していることである。

昭和 20～35 年（頃）間では、圧倒的に表土の被覆が多く、表土の反転と畑化

もみられる。又、その他の改変 1（埋立化）と表土の壊廃がこの時期にみられるのは特異である。

昭和 35～50 年（頃）間になると、やはり表土の被覆が半分以上と多いが相対的な率は下がっている。表土の反転と畑地化も同様に一定の率でみられるが、相対的な率の低下を示している。

これらとは、反対に、その他の改変 1（埋立化）と表土の壊廃が大きくなり、前期には極微率であった盛土が顕著化してきている。

#### 神奈川県

表土改変のメッシュ数の割合は、2 時期とも 15%強と、この値も、他の都県と異なった様相となっている。

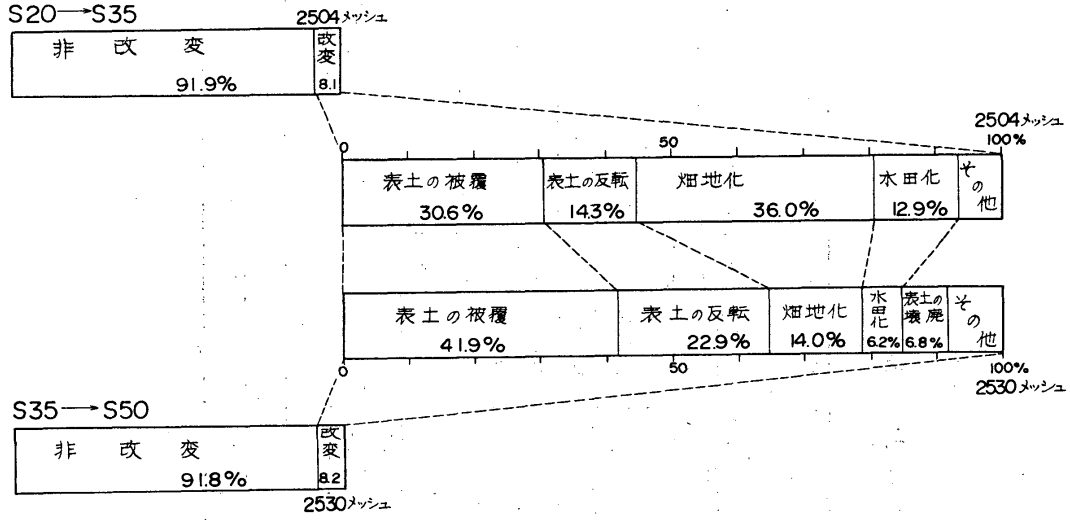
この現象は、東京都と異なって、昭和 35～50 年（頃）間も表土改変がかなりの率で進行したことを明らかにしている。

従って、昭和 20～35 年（頃）間は、表土の被覆が圧倒的にすすみ表土の反転と畑地化がみられる点で、東京都の同時期と傾向はほぼ同じであるが、昭和 35～50 年（頃）間では、表土の被覆と表土の反転が、さらに大きく展開している。それとは逆に、畑地化は極めて大巾に減っている。



図-1.2 都県別表土改変区分詳細図 (1)

関東地方(30861メッシュ)



茨城県(5891メッシュ)

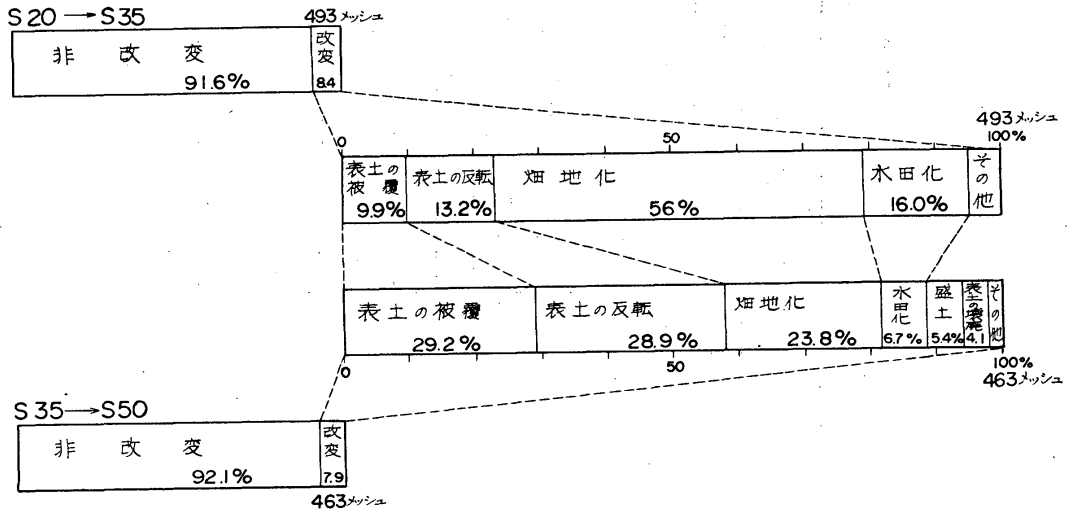
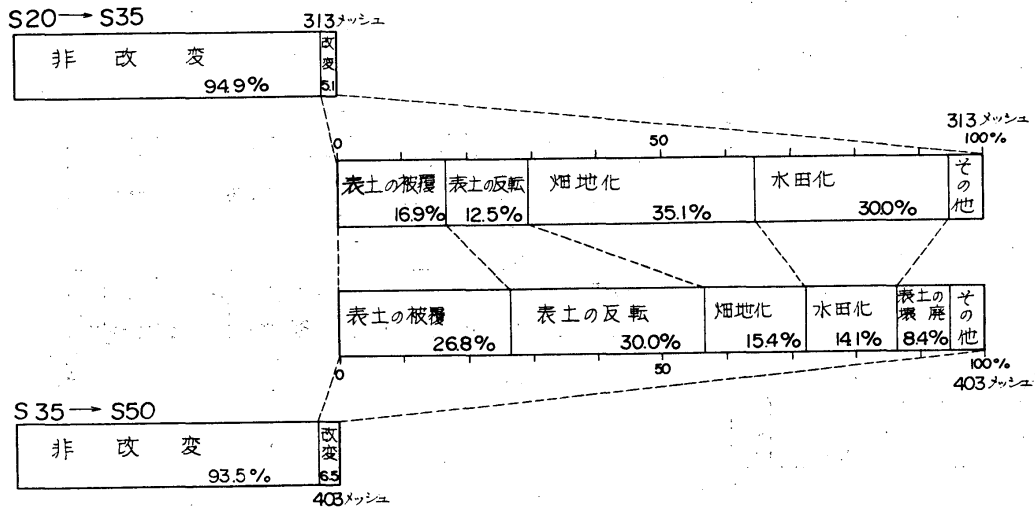


図-12 都県別表土改変区分詳細図 (2)

栃木県 (6191メッシュ)



群馬県 (6160メッシュ)

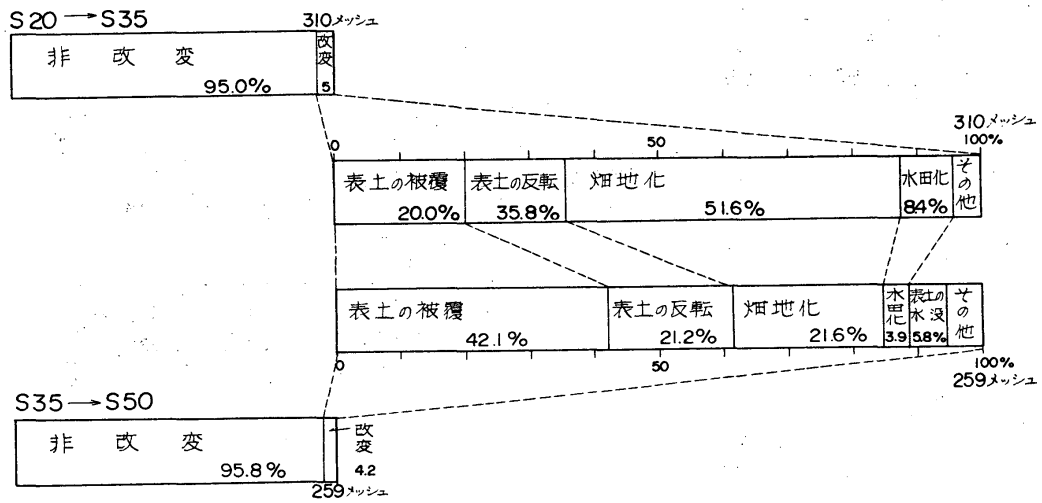
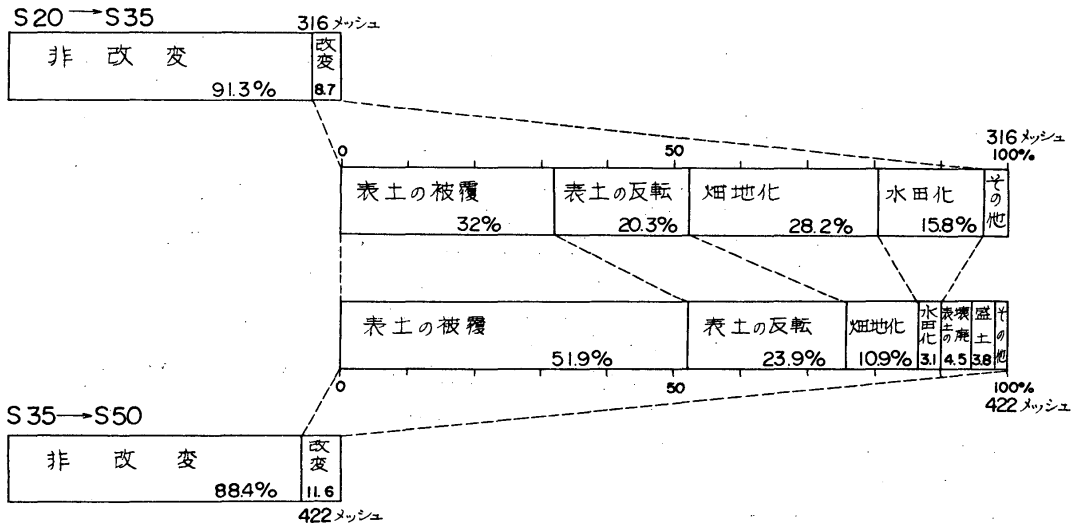




図-12 都県別表土改変区分詳細図 (3)

埼玉県 (3642メッシュ)



千葉県 (4949メッシュ)

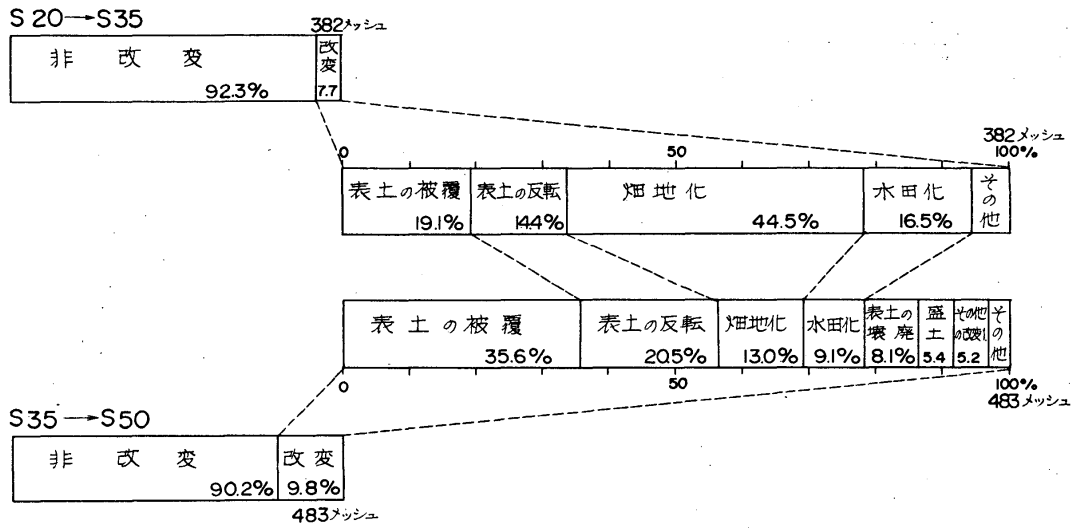
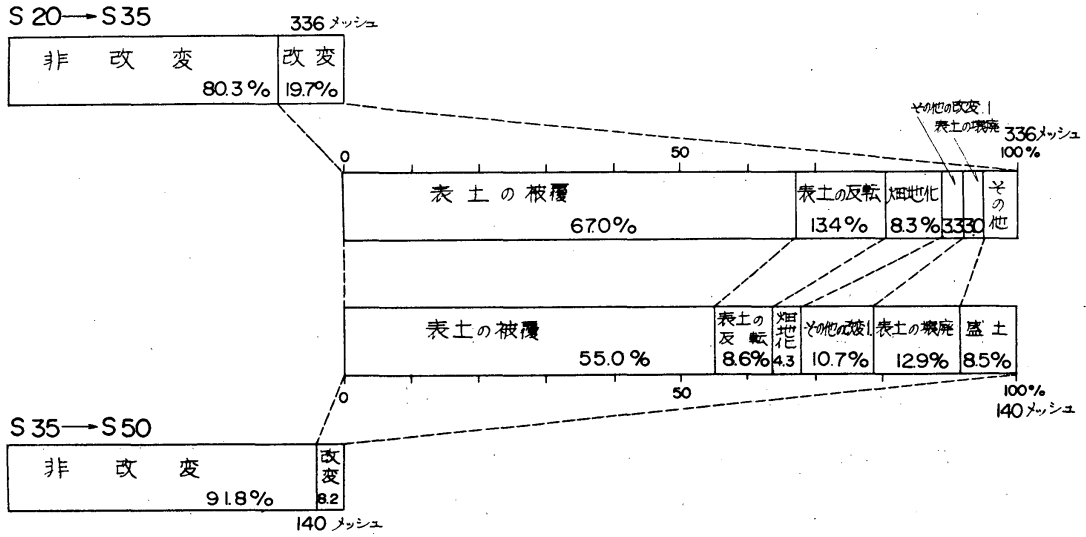
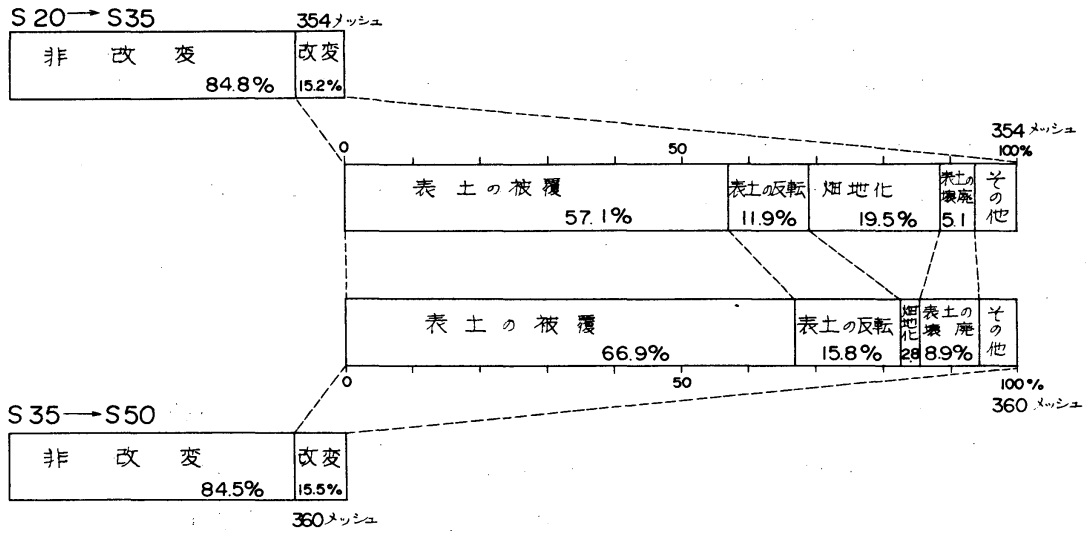


図-12 都県別表土改変区分詳細図 (4)

東京都 (1705メッシュ)



神奈川県 (2323メッシュ)



(8) 考察7 都県別表土細区分毎の表土改変(表-9参照)

考察4, 5, 6では、表土区分の9区分に相当する「表土改変区分」で考察をしてきたが、ここでは、表土細区分の17細区分で、昭和20年(頃)のメッシュ数のその後の表土改変あるいは非改変の割合をみていく。

関東地方

全域のメッシュ数のうち、ほぼ4分の1が、昭和20年(頃)の時点から、その後昭和50年(頃)までの間に、なんらかの表土改変を受けている。

表土改変率でみると、大きいものは、被覆地の「その他」,「その他」の臨海埋立, 表土壌廃地, 自然表土地の原野, 表土反転地の牧草地(人工草地)と「果樹園・桑畑・茶畑」, 水域の海域があげられる。

小さいものでは、被覆地の市街地と工場地帯, 表土反転地の「その他」, 水域の陸水域, 自然表土地の植林地, 水田, 盛土の順である。

表土改変のメッシュ数でみると、自然表土地の森林, 畑地, 水田, 自然表土地の植林等の順で多い。

当然といえば、それまでであるが、被覆地の市街地の表土改変率がわずか2%であるのは、興味深い。

この関東地方の表土改変率は、1都6県の平均的な値とみてよいので、各県の数値をみるときの基準にされたい。

茨城県

全県のメッシュ数のうち、2割強が昭和20年(頃)の時点からその後に、なんらかの表土改変を受けている。この値は、関東地方全域の値よりやや小さい。

表土改変率でみると、表土反転地の牧草地(人工草地), 自然表土地の原野, 被覆地の「その他」, 以上の3表土細区分のものが群を抜いて大きい。

その他は、自然表土地の森林，表土反転地の「果樹園，桑畑，茶畑」が40%台である以外は、いずれも2割以下の表土改変率である。

メッシュ数では、自然表土地の森林と植林地，畑地，水田， の順で表土改変が多い。

以上の表土細区分のそれぞれは、関東地方とほぼ同じであるが、自然表土地の森林の表土改変率がかなり大きくなっており、畑地の改変率がかなり小さくなっていることは特性としてあげられる。

## 栃 木 県

全県のメッシュ数のうち、24%のメッシュが改変を受けたが、これは関東地方全域の表土改変率と同じ値である。

表土改変率では、表土壌廃地，被覆地の「その他」，自然表土地の原野，の昭和20年（頃）以降の変化が大きい。

表土反転地の牧草地（人工草地），畑地，自然表土地の森林，表土反転地の「果樹園・桑畑・茶畑」も3～4割の表土改変率をみせている。

その他は、15%以下の値と小さい。

その中でも、特に、水田の表土改変率が極めて小さいことと、被覆地の市街地のそれがやや大きいのが注目される場所である。

メッシュ数では、自然表土地の森林，畑地，自然表土地の植林地，水田の順で表土改変数が多い。

## 群 馬 県

表土改変メッシュ数の全県メッシュ数に対する比率は、ほぼ4分の1で平均的である。

表土反転地の「果樹園・桑畑・茶畑」で、まとまった数としての改変率が

大きいのが特異である他に、自然表土地の森林が平均的に改変率の3分の1を占めている。これ以外は総じて2割以下の小さな値である。

メッシュ数では、自然表土地の森林，表土反転地の「果樹園，桑畑，茶畑」水田，畑地．での表土改変数が多い。

自然表土地の植林地の表土改変率が他県に比べて小さいのが特徴的である。

#### 埼玉県

表土改変メッシュ数の全県メッシュ数に対する比率は、ほぼ4分の1で平均的である。

被覆地の「その他」，表土反転地の「果樹園・桑畑・茶畑」で、改変率が相対的に大きく、又畑地と水田の改変率が、他県よりも大きい値を示しているが、その他は、関東地方全域の値に近いが、もしくはそれを下回る。

改変メッシュ数でみるならば、水田、畑地での数が第1・2位を占めているのは、特徴的である。

#### 千葉県

全県のメッシュ数のうち、2割がなんらかの表土改変をしているが、これは他県に比べて小さい。

改変率が顕著なものは、自然表土地の原野の他に、海を抱えている県として水域のうちの海域が出現するが、その他は、おおむね2割前後もしくはそれ以下の値である。

自然表土地の森林の改変率が、やや小さいことと、数は少ないが、水域の海域の改変と関連して、その他の臨海（埋立）が目新しいものとして指摘できる。

## 東京都

全県のメッシュ数の3分の1が表土改変しているのは、かなり高率で、他県にはない特異なところである。

畑地，水田，表土反転地の「果樹園・桑畑・茶畑」と「その他」，被覆地の「その他」，での改変率が極めて大きい。東京都の場合、被覆地の「その他」には、昭和20年（頃）当時は、戦災焼跡地を包括しているので、改変率が高くなっている。

又、千葉県と同様に、水域の「海域上それと関連したその他の臨海（埋立）」の改変率の大きさが顕著である。

## 神奈川県

東京都に次いで、表土改変率が約3分の1と高率である。

やはり、表土改変率の高いものは、自然表土地の原野、表土反転地の「果樹園・桑畑・茶畑」，畑地，水田である。

これらの表土改変率の値の中で、特に畑地，水田のものは、東京都と同様にかかなり大きい。畑地・水田の減少を、このデータも裏付けている。

海域を抱える県として、水域の「海域」とこれに結びついているその他の臨海（埋立）の改変率が大きいのは、東京都・千葉県と同じである。

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 1 )

関東地方

表土区分	細区分	昭和20年頃 メッシュ数	昭和50年頃まで 非改変メッシュ数 (20年対比%)	昭和50年頃まで 改変メッシュ数 (20年対比%)	改変メッシュ数の 多いものの 単位
自然表土地	森林 11	8,727	5,827 (67)	2,900 (33)	1
	植林地 12	6,991	6,019 (86)	972 (14)	4
	原野 13	623	264 (42)	359 (58)	6
被覆地	市街地 21	1,330	1,298 (98)	32 (2)	-
	工場地帯 22	83	75 (90)	8 (10)	-
	その他 23	159	37 (23)	122 (77)	8
盛土	地 30	9	7 (78)	2 (22)	-
表土	壊廃地 40	11	3 (27)	8 (73)	-
表土 反転 地	牧草地(人口草地) 51	17	8 (47)	9 (53)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	811	383 (47)	428 (53)	5
	その他 53	429	386 (90)	43 (10)	-
畑	地 60	4,103	2,913 (71)	1,190 (29)	2
水	田 70	6,490	5,452 (84)	1,038 (16)	3
水域	陸水域 81	798	706 (88)	92 (12)	-
	海域 82	261	126 (48)	135 (52)	7
その他	陸域内 91	0	0 (-)	0 (-)	-
	臨海 92	19	6 (32)	13 (68)	-
計		30,861	-	7,351 (24%)	-

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 2 )

茨城県

表土区分	細区分	昭和20年頃 メッシュ数	昭和50年頃まで 非改変メッシュ数 (20年対比%)	昭和50年頃まで 改変メッシュ数 (20年対比%)	改変メッシュ数の 多いものの 単位
自然表土地	森林 11	788	410 (52)	378 (48)	1
	植林地 12	1,468	1,248 (85)	220 (15)	2
	原野 13	157	29 (18)	128 (82)	5
被覆地	市街地 21	220	215 (98)	5 (2)	-
	工場地帯 22	8	8 (100)	0 (0)	-
	その他 23	26	9 (35)	17 (65)	-
盛土 30	0	0 (-)	0 (-)	-	
表土壊廃地 40	3	1 (33)	2 (67)	-	
表土反転地	牧草地(人口草地) 51	3	0 (0)	3 (100)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	73	43 (59)	30 (41)	6
	その他 53	100	91 (91)	9 (9)	-
畑地 60	1,175	956 (81)	219 (19)	3	
水田 70	1,524	1,343 (88)	181 (12)	4	
水域	陸水域 81	327	302 (92)	25 (8)	-
	海域 82	19	16 (84)	3 (16)	-
その他	陸域内 91	0	0 (-)	0 (-)	-
	臨海 92	0	0 (-)	0 (-)	-
計		5,891		1,220 (21%)	



表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 3 )

栃 木 県

表土区分	細 区 分	昭和 20 年頃 メッシュ数	昭和 50 年頃まで 非改変メッシュ数 (20 年対比%)	昭和 50 年頃まで 改変メッシュ数 (20 年対比%)	改変メッシュ数の 多いもの の単位
自然 表土 地	森 林 11	2,903	1,978 (68)	925 (32)	1
	植 林 地 12	1,041	895 (86)	146 (14)	3
	原 野 13	132	61 (46)	71 (54)	5
被 覆 地	市 街 地 21	119	110 (92)	9 ( 8)	-
	工 場 地 帯 22	3	3 (100)	0 ( 0)	-
	そ の 他 23	5	1 (20)	4 (80)	-
盛	土 地 30	3	3 (100)	0 ( 0)	-
表 土 壤 廃 地 40		2	0 ( 0)	2 (100)	-
表土 反 転 地	牧草地(人口草地)51	7	4 (57)	3 (43)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	7	5 (71)	2 (29)	-
	そ の 他 53	77	73 (95)	4 ( 5)	-
畑	地 60	453	267 (59)	186 (41)	2
水	田 70	1327	1,228 (93)	99 ( 7)	4
水 域	陸 水 域 81	112	99 (88)	13 (12)	-
	海 域 82	0	0 ( -)	0 ( -)	-
そ の 他	陸 域 内 91	0	0 ( -)	0 ( -)	-
	臨 海 92	0	0 ( -)	0 ( -)	-
計		6,191		1,464	

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 4 )

群馬県

表土区分	細区分	昭和20年頃 メッシュ数	昭和50年頃まで 非改変メッシュ数 (20年対比%)	昭和50年頃まで 改変メッシュ数 (20年対比%)	改変メッシュ数の 多いものの単位
自然表土地	森林 11	3,503	2,355 (67)	1,148 (33)	1
	植林地 12	771	707 (92)	64 (8)	5
	原野 13	167	124 (74)	43 (26)	6
被覆地	市街地 21	165	162 (98)	3 (2)	-
	工場地帯 22	2	2 (100)	0 (0)	-
	その他 23	2	1 (50)	1 (50)	-
盛土	地 30	2	2 (100)	0 (0)	-
表土	壊廃地 40	4	1 (25)	3 (75)	-
表土 反転 地	牧草地(人口草地) 51	5	2 (40)	3 (60)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	288	168 (58)	120 (42)	2
	その他 53	48	46 (96)	2 (4)	-
畑	地 60	494	421 (35)	73 (15)	4
水	田 70	633	524 (83)	109 (17)	3
水域	陸水域 81	76	66 (87)	10 (13)	-
	海域 82	0	0 (-)	0 (-)	-
その他	陸域内 91	0	0 (-)	0 (-)	-
	臨海 92	0	0 (-)	0 (-)	-
計		6,160		1,579 (26%)	

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 5 )

埼 玉 県

表土区分	細 区 分	昭和 20 年頃 メッシュ数	昭和 50 年頃まで 非改変メッシュ数 (20 年対比%)	昭和 50 年頃まで 改変メッシュ数 (20 年対比%)	改変メッシュ数の 多いもの の単位
自然 表土 地	森 林 11	307	190 (62)	117 (38)	3
	植 林 地 12	1,068	982 (92)	86 ( 8)	5
	原 野 13	18	2 (11)	16 (89)	-
被 覆 地	市 街 地 21	182	179 (98)	3 ( 2)	-
	工 場 地 帯 22	5	5 (100)	0 ( 0)	-
	そ の 他 23	16	3 (19)	13 (81)	-
盛 土 地 30	1	1 (100)	0 ( 0)	-	
表 土 壤 廃 地 40	0	0 ( -)	0 ( -)	-	
表土 反 転 地	牧草地(人口草地)51	0	0 ( -)	0 ( -)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	171	74 (43)	97 (57)	4
	そ の 他 53	46	45 (98)	1 ( 2)	-
畑 地 60	628	410 (65)	218 (35)	2	
水 田 70	1,119	851 (76)	268 (24)	1	
水 域	陸 水 域 81	81	72 (89)	9 (11)	-
	海 域 82	0	0 ( -)	0 ( -)	-
そ の 他	陸 域 内 91	0	0 ( -)	0 ( -)	-
	臨 海 92	0	0 ( -)	0 ( -)	-
計		3,642		828 (23%)	

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 6 )

千葉県

表土区分	細区分	昭和20年頃メッシュ数	昭和50年頃まで非改変メッシュ数(20年対比%)	昭和50年頃まで改変メッシュ数(20年対比%)	改変メッシュ数の多いものの単位
自然表土地	森林 11	663	502 (76)	161 (24)	3
	植林地 12	1,365	1,109 (81)	256 (19)	1
	原野 13	105	32 (30)	73 (70)	5
被覆地	市街地 21	129	122 (95)	7 (5)	-
	工場地帯 22	6	4 (67)	2 (33)	-
	その他 23	18	6 (33)	12 (67)	-
盛土 30	0	0 (-)	0 (-)	-	
表土壌廃地 40		1	1 (100)	0 (0)	-
表土反転地	牧草地(人口草地) 51	2	2 (100)	0 (0)	-
	果樹園桑畑茶畑 52	25	17 (68)	8 (32)	-
	その他 53	96	80 (83)	16 (17)	-
畑 60	813	627 (77)	186 (23)	2	
水田 70	1,480	1,328 (90)	152 (10)	4	
水域	陸水域 81	102	79 (77)	23 (23)	7
	海域 82	138	65 (47)	73 (53)	5
その他	陸域内 91	0	0 (-)	0 (-)	-
	臨海 92	6	1 (17)	5 (83)	-
計		4,949		974 (20%)	

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 (7)

東京都

表土区分	細区分	昭和20年頃メッシュ数	昭和50年頃まで非改変メッシュ数(20年対比%)	昭和50年頃まで改変メッシュ数(20年対比%)	改変メッシュ数の多いものの単位
自然表土地	森林 11	187	130 (70)	57 (30)	4
	植林地 12	474	423 (89)	51 (11)	5
	原野 13	4	3 (75)	1 (25)	-
被覆地	市街地 21	316	314 (99)	2 (1)	-
	工場地帯 22	23	22 (96)	1 (4)	-
	その他 23	77	8 (10)	69 (90)	3
盛土	地 30	1	1 (100)	0 (0)	-
表土	壊地 40	0	0 (-)	0 (-)	-
表土反転地	牧草地(人口草地) 51	0	0 (-)	0 (-)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	44	5 (11)	39 (88)	6
	その他 53	42	32 (76)	10 (24)	-
畑	地 60	302	112 (37)	190 (63)	1
水	田 70	142	36 (25)	106 (75)	2
水域	陸水域 81	40	35 (88)	5 (22)	-
	海域 82	45	15 (33)	30 (67)	7
その他	陸域内 91	0	0 (-)	0 (-)	-
	臨海 92	8	4 (50)	4 (50)	-
計		1,705		565 (33%)	

表 - 9 都県別表土細区分改変メッシュ数集計表 ( 8 )

神奈川県

表土区分	細区分	昭和20年頃 メッシュ数	昭和50年頃まで 非改変メッシュ数 (20年対比%)	昭和50年頃まで 改変メッシュ数 (20年対比%)	改変メッシュ数の 多いものの 単位
自然 表土 地	森 林 11	376	262 (70)	114 (30)	5
	植 林 地 12	804	655 (81)	149 (19)	1
	原 野 13	40	13 (32)	27 (68)	7
被 覆 地	市 街 地 21	199	196 (98)	3 ( 2)	-
	工 場 地 帯 22	36	31 (86)	5 (14)	-
	そ の 他 23	15	9 (60)	6 (40)	-
盛 土 地	盛 土 地 30	2	0 ( 0)	2 (100)	-
表 土 壤 廃 地	表 土 壤 廃 地 40	1	0 ( 0)	1 (100)	-
表 土 反 転 地	牧草地(人口草地)51	0	0 ( -)	0 ( -)	-
	果樹園桑畑 茶畑 52	203	71 (35)	132 (65)	2
	そ の 他 53	20	19 (95)	1 ( 5)	-
畑	畑 地 60	238	120 (50)	118 (50)	4
水 田	水 田 70	265	142 (54)	123 (46)	3
水 域	陸 水 域 81	60	53 (88)	7 (12)	-
	海 域 82	59	30 (51)	29 (49)	6
そ の 他	陸 域 内 91	0	0 ( -)	0 ( -)	-
	臨 海 92	5	1 (20)	4 (80)	-
計		2,323		721 (31%)	

(9) 考察8 改変数の多い表土細区分の主たる改変内訳(表-10参照)

考察7で、表土細区分毎に昭和20年(頃)を基準に、その後の改変及び、非改変割合をみたが、ここでは、改変したもののうち、個数が多かったものを抽出して、具体的に、昭和20年(頃)の表土細区分が、昭和50年(頃)にはどのような表土細区分に変覆して収束しているかをみる。

考察は、表土細区分毎に、各都県を対象とする方法をとった。(\*)表-10の表土細区分名は、スペースの関係上略名をもちいているものもある。

昭和20年(頃)に「森林」のものの改変

関東地方：植林地(81%) 畑地(8%)

茨城県：" (77%) " (12%)

栃木県：" (79%) " (6%)

群馬県：" (86%) " (8%)

埼玉県：" (96%)

千葉県：" (99%)

東京都：" (70%) 市街地(12%)

神奈川県：" (39%) 市街地(29%)

大部分が「植林地」に改変して、一部が「畑地」。

東京都、神奈川県では、畑地ではなく、「市街地」へ改変移行している。神奈川県の「市街地」移行の率が高いのが注目される。

昭和20年(頃)「植林地」のものの改変

関東地方	： 畑地 ( 3 2 % )	表土反転地 ( 1 7 % )	市街地 ( 1 6 % )	
		その他		
茨城県	： " ( 5 2 % )	" ( 1 3 % )	森 林 ( 1 1 % )	
栃木県	： " ( 2 5 % )	森 林 ( 2 2 % )	地土反転地 ( 1 6 % )	
			その他	
群馬県	： 森林 ( 5 5 % )	畑 地 ( 3 0 % )		
埼玉県	： 畑地 ( 3 3 % )	表土反転地 ( 2 9 % )	市街地 ( 1 6 % )	
		その他		
千葉県	： " ( 3 8 % )	" ( 2 2 % )	" ( 1 3 % )	
東京都	： 表土壌 ( 3 1 % )	市街地 ( 2 9 % )	表土反転地 ( 1 8 % )	
	廃 地		その他	
神奈川県	： 市街地 ( 5 1 % )	表土反転地 ( 1 5 % )		
		その他		

順位は、県によって異なるが、おおむね「畑地」、「表土反転地その他」、「市街地」へ改変移行している。東京都で多い「表土壌廃地」は「市街地」の前段階としての丘陵地宅地造成地が多い。

#### 昭和20年(頃)に「原野」のものの改変

関東地方	： 畑地 ( 3 1 % )	市街地 ( 1 5 % )	水田 ( 1 4 % )
茨城県	： " ( 3 2 % )	水田 ( 1 5 % )	植林地 ( 1 3 % )
栃木県	： " ( 3 7 % )	植林地 ( 2 1 % )	水田 ( 1 5 % )
群馬県	： " ( 2 6 % )	果 樹 ( 1 4 % )	植林地 ( 1 2 % )
		園 他	水田
千葉県	： " ( 3 8 % )	水田 ( 1 8 % )	市街地 ( 1 5 % )
神奈川県	： 市街地 ( 4 8 % )		

「畑地」もしくは「市街地」「水田」への改変移行が大部分。

#### 昭和20年(頃)に「被覆地のその他」のものの改変

関東地方	： 市街地 ( 6 6 % )	畑地 ( 1 3 % )
------	-----------------	--------------



東京都 : 市街地 ( 96% )

大部分が「市街地」へ改変されている。戦災焼跡地からの復興への経過のあらわれとみてよい。

昭和20年(頃)に「果樹園・桑畑・茶畑」のものの改変

関東地方: 畑地 ( 36% ) 市街地 ( 35% ) 水田 ( 13% )

茨城県 : " ( 83% )

群馬県 : " ( 38% ) 市街地 ( 33% ) 水田 ( 13% )

埼玉県 : 水田 ( 40% ) 畑地 ( 34% ) 市街地 ( 15% )

東京都 : 市街地 ( 64% ) " ( 15% )

神奈川県: " ( 54% ) " ( 27% ) 工場地帯 ( 13% )

地帯

「畑地」もしくは「市街地」への移行と見てよい。埼玉県で、「水田」への割合が多いのは、特異である。

昭和20年(頃)に「畑地」のものの改変

関東地方: 市街地 ( 44% ) 水田 ( 19% ) 表土反転地 ( 14% )

茨城県 : 水田 ( 32% ) 市街地 ( 27% ) 果樹園他 ( 20% )

栃木県 : " ( 46% ) " ( 23% ) " ( 10% )

群馬県 : 市街地 ( 44% ) 表土反転地 ( 19% ) " ( 12% )

その他

埼玉県 : " ( 53% ) " ( 15% ) 工場地帯 ( 11% )

千葉県 : 水田 ( 32% ) 市街地 ( 28% ) 表土反転地 ( 17% )

その他

東京都 : 市街地 ( 78% ) 表土反転地 ( 10% )

その他

神奈川県: " ( 62% ) " ( 14% ) 工場地帯 ( 8% )

「市街地」への移行が最も多い。その他では「表土反転地のその他」がみられるが、茨城・栃木・千葉の各県では、「水田」への改変が顕著である。

昭和20年(頃)に「水田」のものの改変

関東地方	市街地(43%)	畑地(27%)	表土反転地(9%)
			その他
茨城県	畑地(59%)	市街地(16%)	"(10%)
栃木県	市街地(37%)	畑地(23%)	"(13%)
群馬県	"(53%)	"(21%)	工場地帯(12%)
埼玉県	"(46%)	"(20%)	表土反転地(15%)
			その他
千葉県	畑地(36%)	市街地(31%)	盛土地(12%)
東京都	市街地(58%)	畑地(18%)	"(11%)
神奈川県	"(75%)	工場地帯(11%)	

「畑地」と同様に「市街地」への移行が最も多い。次いで「畑地」といえよう。大部分この2者のいずれかといってよい。

昭和20年(頃)に「陸水域」のものの改変

千葉県 : 水田(83%)

昭和20年(頃)に「海域」のものの改変

関東地方	埋め立て地(49%)	工場地帯(37%)
千葉県	"(34%)	"(33%)
東京都	"(80%)	"(10%)

神奈川県：埋め立て地（55%） 工場地帯（24%）

「埋立地」になって「工場地帯」となる形のものが大部分である。

表 - 10 改変数の多い表土細区分の主たる改変内訳書

<説明>

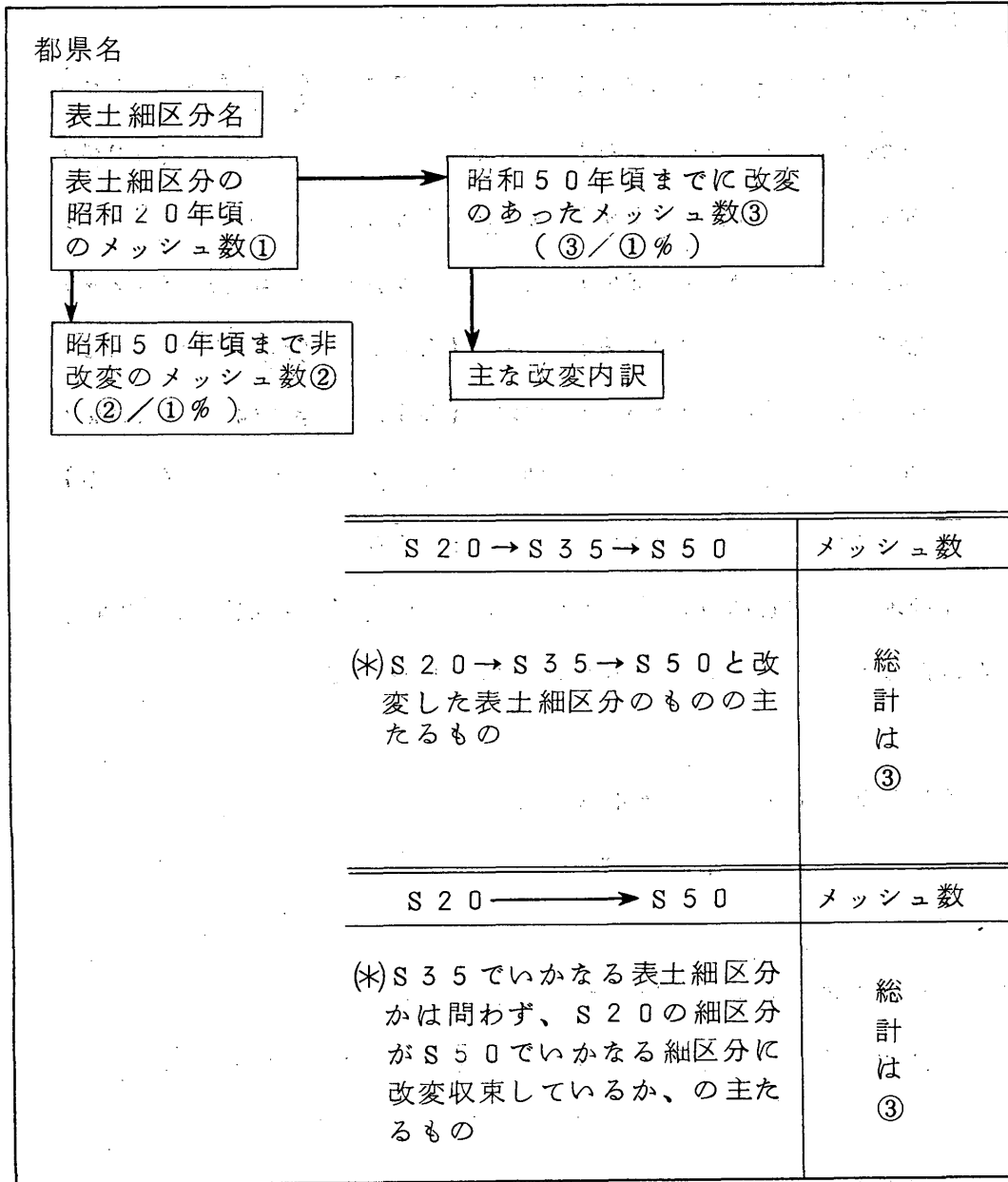


表 - 10 変更数の多い表土細区分の主たる変更内訳書 ( 1 )

関東地方

